

- 1 調査の目的
- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 2 調査の概要
- (1) 調査実施日 令和7年4月17日（木）、4月別日（中学校理科、質問紙）

(2) 調査実施校及び調査学年・児童生徒数
小学校9校（第6学年287名） 中学校4校（第3学年310名）

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学（中学校）、理科）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- 3 教科に関する調査結果の概要

<小学校調査正答率>

<中学校調査正答率>
- | | 国 語 | 算 数 | 理 科 | | 国 語 | 数 学 | 理 科 |
|-----|---------|---------|---------|-----|---------|---------|-------|
| 伊予市 | 6 5 | 5 8 | 5 4 | 伊予市 | 5 4 | 4 5 | 4 9 7 |
| 愛媛県 | 6 5 | 5 8 | 5 7 | 愛媛県 | 5 4 | 4 6 | 4 9 9 |
| 全 国 | 6 6 . 8 | 5 8 . 0 | 5 7 . 1 | 全 国 | 5 4 . 3 | 4 8 . 3 | 5 0 3 |
- 教科別の平均正答率は、小学校算数は全国平均をやや下回った。また、中学校数学も、全国平均をやや下回った。小中学校理科については、全国平均を下回った。小中学校ともに、理科以外は県平均とほぼ同じ正解率であった。
- <小学校>

○ 国語の2項目で全国平均を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の取扱いに関する事項」は、普段の学習の積み重ねが今回の成果につながったと思われる。しかし、「書くこと」については、6.7ポイント全国平均を下回っている。

○ 算数においては「図形」の正答率が全国平均と比較しても4.6ポイント、「測定」の領域でも2.2ポイント高い。しかし、「数と計算」、「変化と関係」の領域では、約3ポイント低くなっている。

○ 理科においては、「生命」「地球」を柱とする領域において全国平均と比較しても約3ポイント低い状況である。
- 改善策
- 今後は、根拠を明確に書く活動や問題解決的な学習活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等の育成を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をより推進することが望まれる。
- <中学校>
- 国語では、ほとんどの項目が全国平均をやや下回っているが、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均と1.2ポイント低くなっている。

○ 数学科では、「図形」の領域を除く全ての項目において全国平均を下回っている。特に「数と式」の領域では、全国平均と比較して5.4ポイント、「データの活用」の領域では6.8ポイント低く大きな課題となっている。

○ 理科の公開問題1（6）も全国平均を大きく下回っており、学習の割り振りにおいて新たな問題や身近な生活との関連について整理し表現することに課題が見られる。

改善策

目指す資質・能力を育成するのに適した言語活動を充実させたり、自分の表現を振り返ったりする場の設定が必要である。今後は生徒一人一人の結果を詳細に分析し、課題を明らかにした上で、基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための具体的な対策を講じることが望まれる。

4 質問紙調査結果の概要

- 児童生徒の生活の様子と学習意欲や学習方法に関する質問
- 県内各小・中学校の児童生徒が Web システムで回答
「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関するものを質問としている。

<将来の夢や目標について>

	質問項目 7 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	将来の夢や目標を持っていますか。	83.0 (81.5)	84.8 (82.4)	85.8 (83.1)
中学校		70.2 (66.3)	73.1 (66.3)	70.4 (67.5)

○小・中学校とも、継続的に肯定率は高い状況で、良好な状況が続いている。

<主体的な学びの視点から>

	質問項目 32 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	授業では、課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでましたか。	71.4 (78.8)	77.1 (81.9)	71.5 (80.3)
中学校		79.2 (79.2)	73.8 (80.3)	71.1 (77.7)

● 全国と比較した肯定率は差があり、今後も授業改善を継続する必要がある。

<対話的な学びの視点から>

	質問項目 31 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しましたか。	60.5 (63.7)	66.9 (67.6)	67.0 (68.6)
中学校		58.5 (62.1)	51.9 (64.8)	60.0 (63.0)

○ 中学校では、肯定率が高まっているとともに、全国比でも改善傾向が見られる。また、小学校でも上昇傾向となっている。

● 中学校では、前年度比で約 8 パーセントの上昇であるが、自分の考えを工夫して伝えることに課題が見られることから、言語活動を重視した授業改善が望まれる。

<深い学びの視点から>

	質問項目 33 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分で考えをまとめる活動を行っていましたか。	71.4 (74.4)	77.4 (79.6)	75.4 (77.8)
中学校		72.6 (69.1)	75.0 (75.4)	66.2 (70.6)

● 今後も、習得・活用・探究という学びの過程の中で、「深い学び」の実現に取り組んでいく必要がある。

<本市の重点項目について>

	質問項目 46 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	国語の授業の内容はよく分かりますか。	73.7 (85.7)	83.1 (86.3)	75.0 (82.8)
中学校		73.7 (80.0)	77.2 (82.7)	66.9 (77.0)

	質問項目 54 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	70.7 (81.2)	75.5 (82.1)	69.4 (78.3)
中学校		65.4 (73.3)	63.8 (75.7)	58.8 (70.3)

	質問項目 62 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	理科の授業の内容はよく分かりますか。			85.8 (88.9)
中学校				62.4 (71.4)

- 中学校の数学では、全国平均と比較した肯定率に大きな差があり、危機感をもって授業改善に取り組む必要がある。

<学習習慣について>

	質問項目 21 番	R 5 (全国)	R 6 (全国)	R 7 (全国)
小学校	学校の授業時間以外に、平日平均 1 日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか。(1 時間以上の割合)	62.0 (57.2)	55.3 (54.6)	54.1 (54.0)
中学校		51.3 (65.8)	55.2 (63.3)	42.5 (61.6)

- 小学校については、全国平均を上回る状況が継続されており、良好な状況である。
- 中学校については、全国平均と比較した肯定率に大きな差があり、家庭と連携しながら対策に取り組む必要がある。

「将来の夢や目標を持っていますか」の問いには、小・中学校とも、継続的に肯定率は高い状況で、良好な状況が続いており、学校におけるキャリア教育の充実が伺える。

中学校「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」の項目では、全国平均と比較した肯定率に差があるものの、各中学校で取組んでいる問答ゲーム等の成果が表れており、言語活動の充実につながっている。

「国語、算数（数学）、理科について授業の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の割合は、全ての教科において全国平均を大きく下回っており、引き続き課題である。

「学校の授業時間以外に、平均 1 日 1 時間以上勉強をしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校は過去 3 年間継続して上回っており良好な状況である。しかし、中学校は大きく下回っており課題である。

5 今後の取組について

本市や各校における児童生徒の実態を適切に把握した上で、各校が「チーム学校」として教職員の共通理解のもと、授業改善に取り組むことが重要になってきます。

また、伊予市では平成 25 年度から「伊予市立学校の教育力向上推進委員会」を設置し、伊予市児童生徒の学習状況に関する課題や今後の取組について協議しています。今後、令和 7 年度の各校の報告事項を確認しながら、伊予市として継続的、系統的な取組が実施されるよう検討していきます。

6 備 考

愛媛県教育委員会のホームページにも県や市町の結果の概要が紹介されています。

(<http://ehime-c.esnet.ed.jp>)